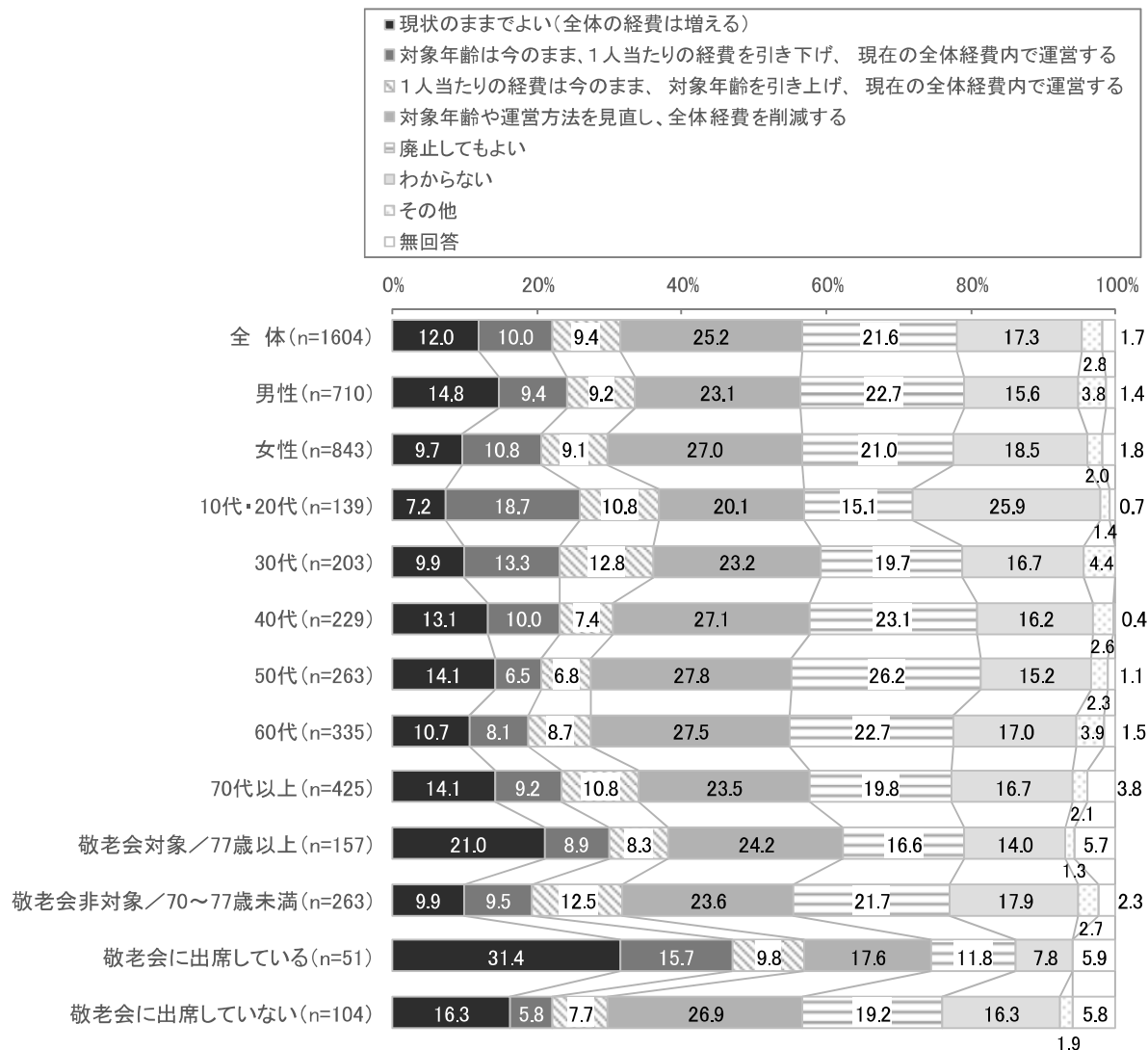


3. 今後の富士市の敬老事業のあり方について

(1) 今後の敬老会のあり方に関する考え

問9 今後の敬老会のあり方について、あなたのお考えをお答えください。(○は1つ)



今後の敬老会のあり方に関する考えについて、全体で見ると、「対象年齢や運営方法を見直し、全体経費を削減する」が25.2%で最も高く、次いで「廃止してもよい」21.6%、「わからない」17.3%の順となっている。

男女別にみても、「対象年齢や運営方法を見直し、全体経費を削減する」が男女ともに最も高い。

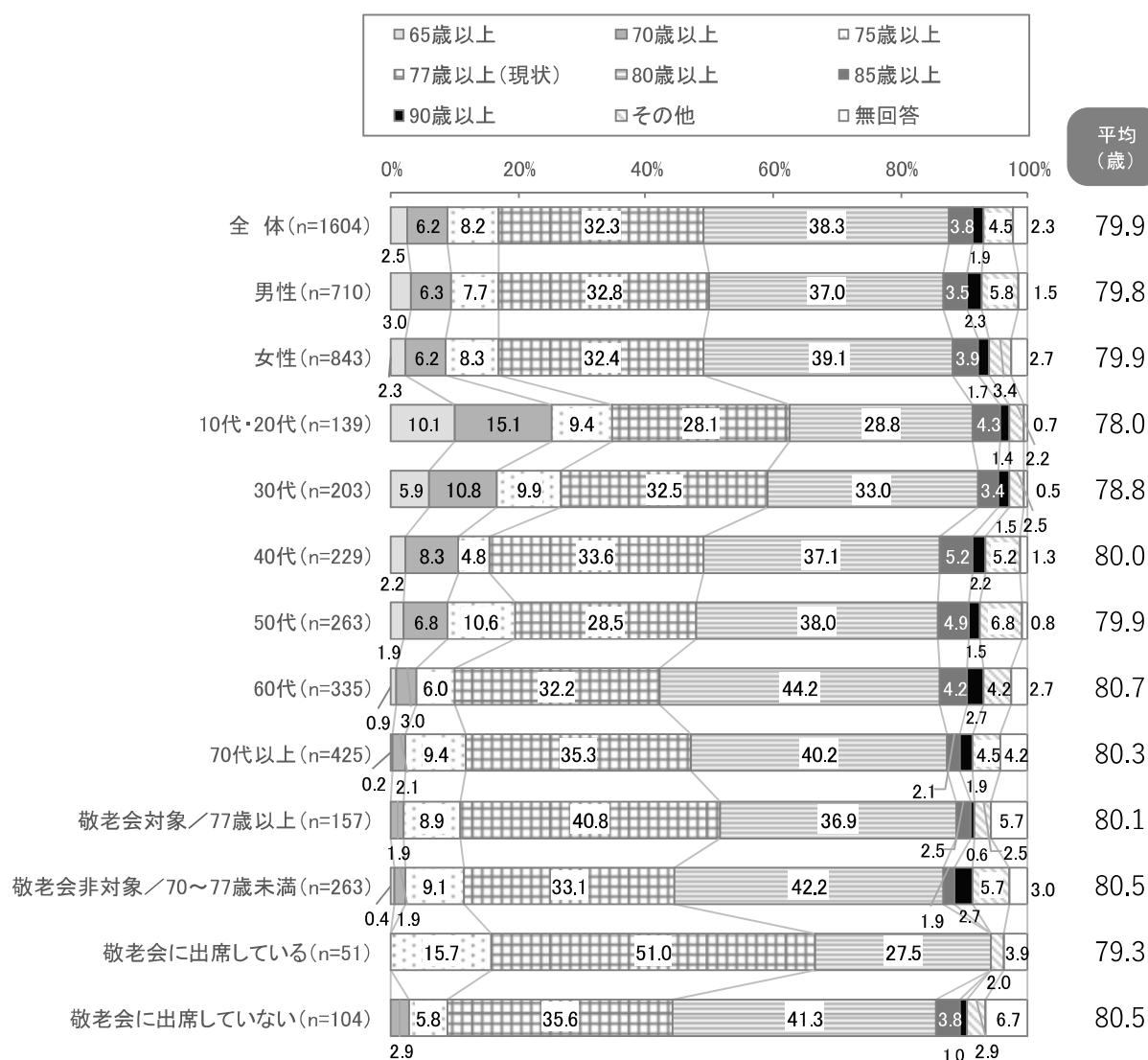
年代別にみても、10代・20代を除き、「対象年齢や運営方法を見直し、全体経費を削減する」が全ての年代で最も高い。なお、10代・20代では、「わからない」が25.9%で最も高くなっている。

敬老会対象者別にみても、対象者・非対象者ともに「対象年齢や運営方法を見直し、全体経費を削減する」が最も高いが、対象者では「現状のままでよい(全体の経費は増える)」が21.0%と、非対象者に比べて2倍近く高い。

敬老会の出席者別にみると、出席者では「現状のままでよい(全体の経費は増える)」が31.4%で最も高く、非出席者では「対象年齢や運営方法を見直し、全体経費を削減する」が26.9%で最も高い。

(2) 敬老会の対象年齢に関する考え

問 10 敬老会の対象年齢の設定は、何歳くらいが適当だと思いますか。(〇は1つ)



※平均は各項目の中位数を用い、「その他」「無回答」を除いて算出

敬老会の対象年齢に関する考えについて、全体で見ると、「80歳以上」が38.3%で最も高く、次いで「77歳以上(現状)」32.3%、「75歳以上」8.2%の順となっており、「平均(歳)」は79.9歳となっている。

男女別にみても、「80歳以上」が男女ともに最も高く、「平均(歳)」も男女に大きな差はみられない。

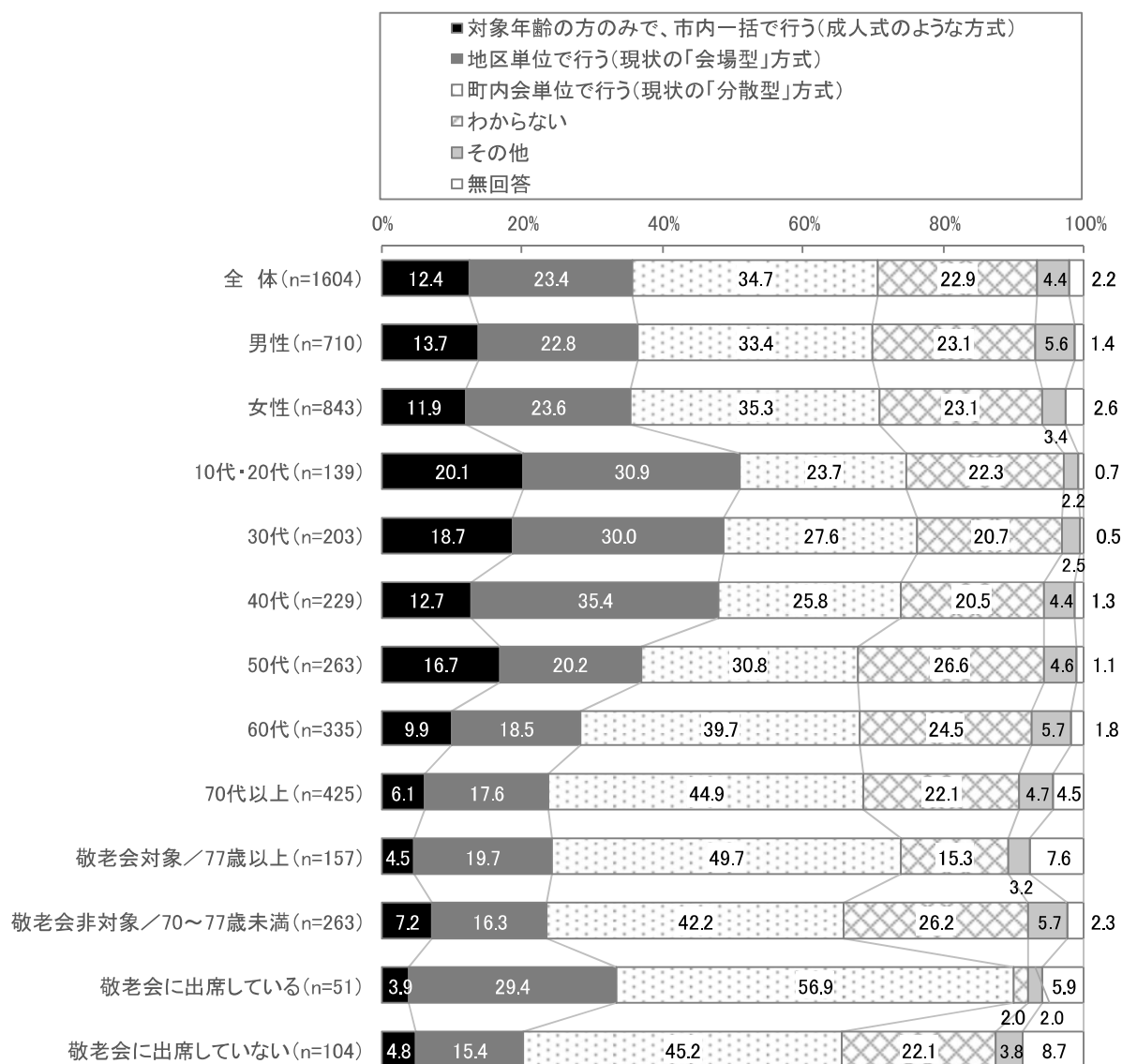
年代別にみても、「80歳以上」が全ての年代で最も高い。なお、年代が高くなるにつれて、「65歳以上」と「70歳以上」の割合が低くなっている。

敬老会対象別にみると、対象者では「77歳以上(現状)」が40.8%で最も高く、非対象者では「80歳以上」が42.2%で最も高い。

敬老会の出席者別にみると、出席者では「77歳以上(現状)」が51.0%で最も高く、非出席者では「80歳以上」が41.3%で最も高い。

(3) 敬老会の開催方法に関する考え

問 11 敬老会の開催方式は、どのような方式がよいと思いますか。(〇は1つ)



敬老会の開催方法に関する考えについて、全体で見ると、「町内会単位で行う(現状の「分散型」方式)」が34.7%で最も高く、次いで「地区単位で行う(現状の「会場型」方式)」23.4%、「わからない」22.9%の順となっている。

男女別にみても、「町内会単位で行う(分散型)」が男女ともに最も高い。

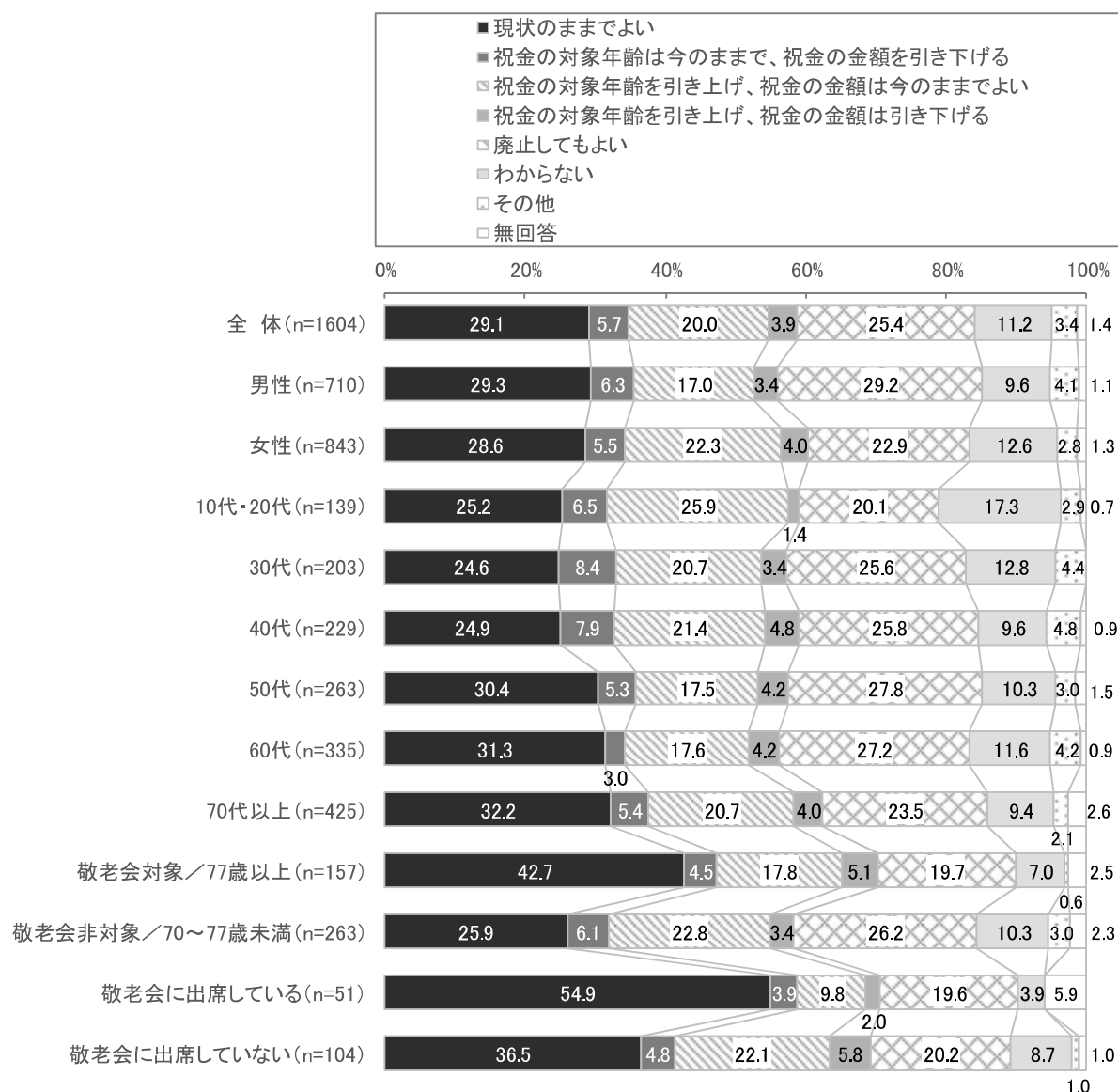
年代別にみると、40代以下では「地区単位で行う(会場型)」が最も高く、50代以上では「町内会単位で行う(分散型)」が最も高い。なお、40代を境に年代が高くなるごとに「地区単位で行う(会場型)」が低くなり、「町内会単位で行う(分散型)」が高くなる傾向がみられる。

敬老会対象者別にみても、対象者・非対象者ともに、「町内会単位で行う(分散型)」が最も高い。

敬老会の出席者別にみても、出席者・非出席者ともに「町内会単位で行う(分散型)」が最も高く、特に出席者では5割以上となっている。

(4) 敬老祝金支給事業に関する考え

問 12 今後の敬老祝金支給事業について、どのように思いますか。(〇は1つ)



敬老祝金支給事業に関する考えについて、全体で見ると、「現状のままでよい」が29.1%で最も高く、次いで「廃止してもよい」25.4%、「祝金の対象年齢を引き上げ、祝金の金額は今のままでよい」20.0%の順となっている。

男女別にみても、「現状のままでよい」が男女ともに最も高い。なお、男性では「廃止してもよい」が29.2%で、「現状のままでよい」と拮抗している。

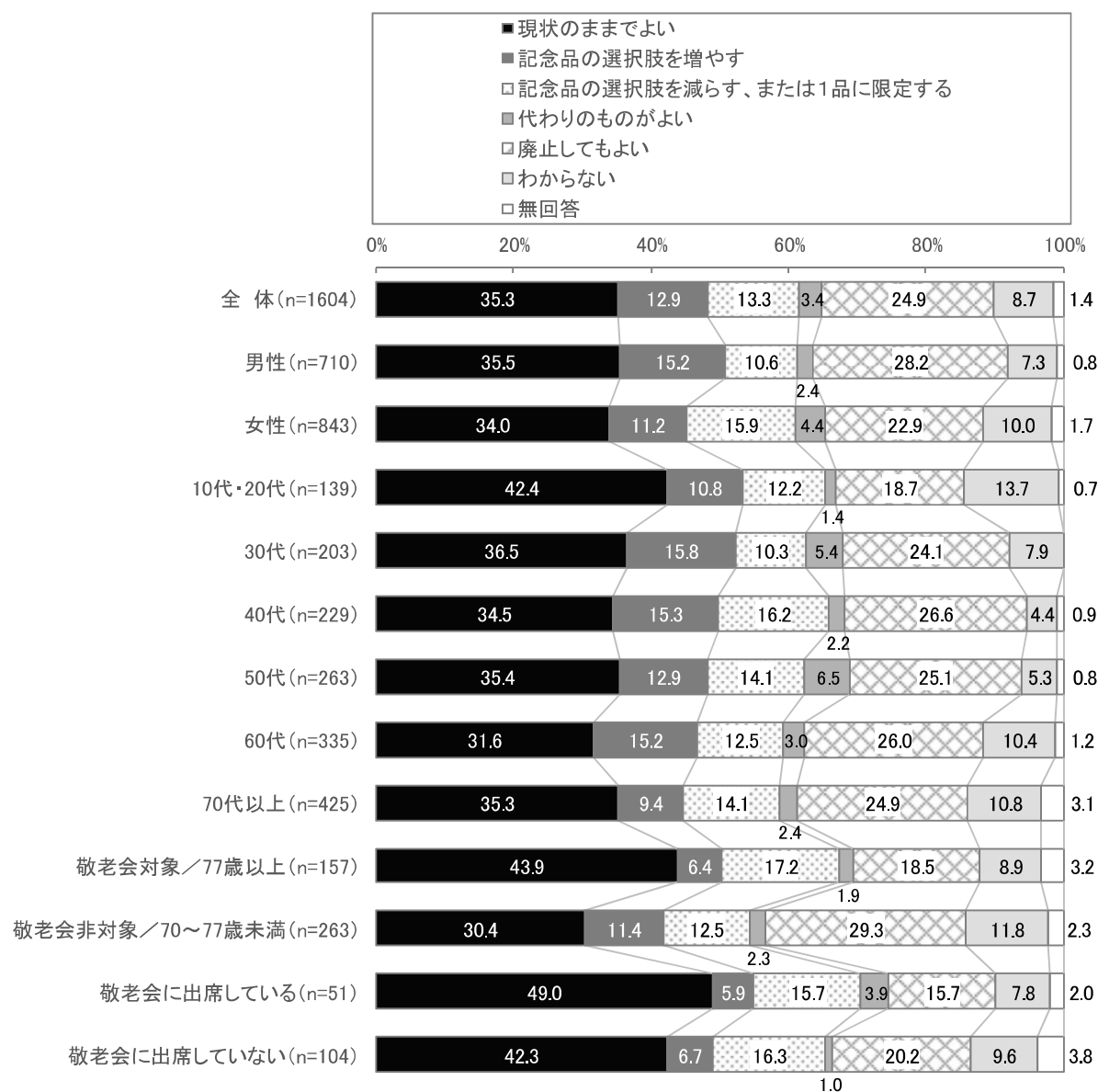
年代別にみると、10代・20代では「祝金の対象年齢を引き上げ、祝金の金額は今のままでよい」、30代、40代では「廃止してもよい」、50代以上では「現状のままでよい」が最も高い。

敬老会対象者別にみると、対象者では「現状のままでよい」が42.7%と特に高くなっている。非対象者では「廃止してもよい」が「現状のままでよい」をわずかに上回った。

敬老会の出席者別にみると、出席者・非出席者ともに「現状のままでよい」が最も高く、特に出席者では5割以上となっている。

(5) 米寿記念品支給事業に関する考え

問 13 今後の米寿記念品支給事業について、どのように思いますか。(〇は1つ)



米寿記念品支給事業に関する考えについて、全体で見ると、「現状のままでよい」が 35.3%で最も高く、次いで「廃止してもよい」24.9%、「記念品の選択肢を減らす、または1品に限定する」13.3%の順となっている。

男女別にみても、「現状のままでよい」が男女ともに最も高い。

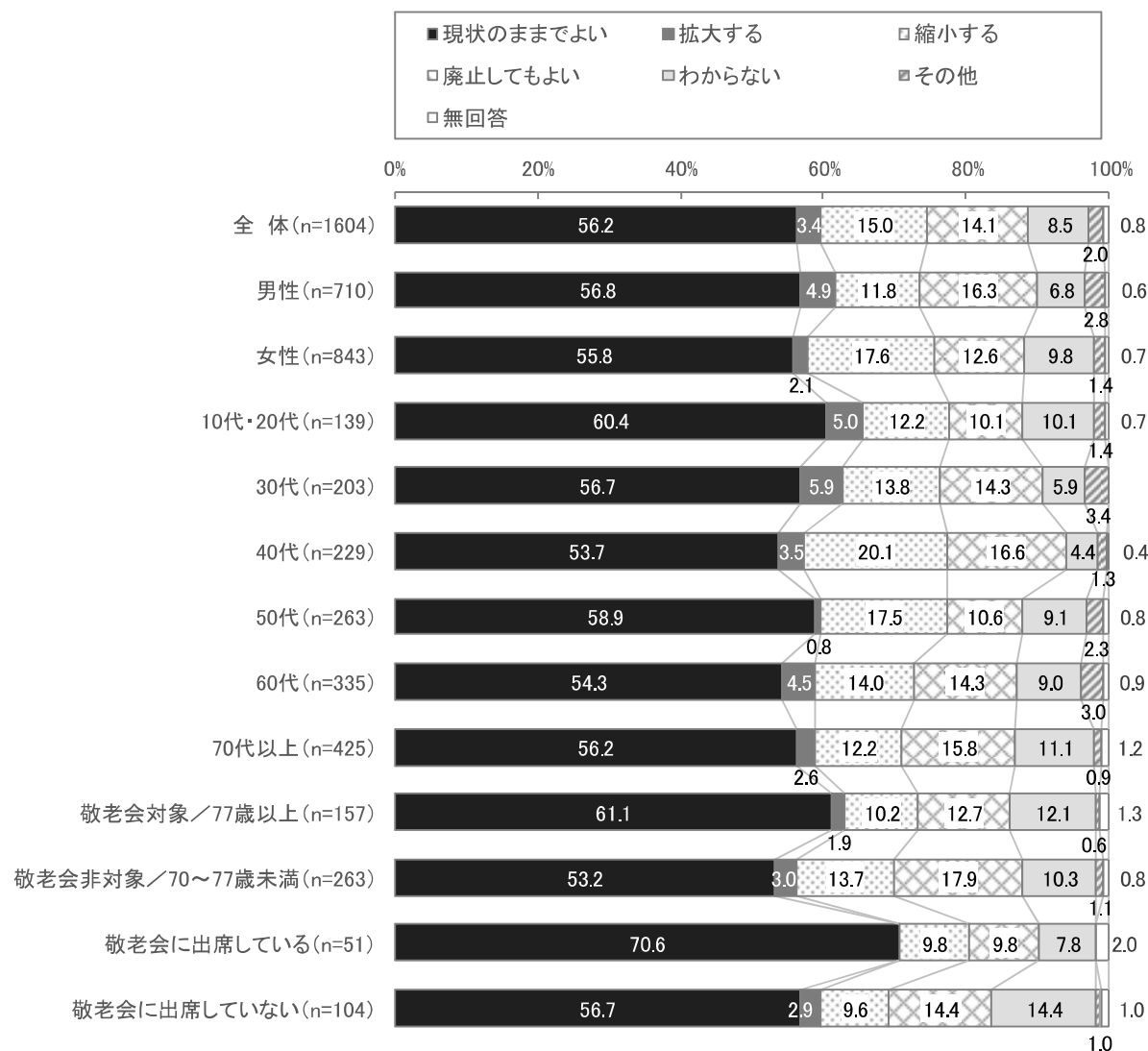
年代別にみても、「現状のままでよい」が全ての年代で最も高い。特に 10代・20代では4割以上と他の世代に比べて高くなっている。

敬老会対象者別にみても、対象者・非対象者ともに「現状のままでよい」が最も高い。特に対象者では4割以上となっている。

敬老会の出席者別にみると、出席者・非出席者ともに「現状のままでよい」が最も高く、特に出席者では5割近くとなっている。

(6) 100歳長寿祝に関する考え

問 14 100歳長寿祝（10万円・花束・賀詞）について、どのように思いますか。（○は1つ）



100歳長寿祝に関する考えについて、全体で見ると、「現状のままでよい」が56.2%で最も高く、次いで「縮小する」15.0%、「廃止してもよい」14.1%の順となっている。

男女別にみても、「現状のままでよい」が男女ともに最も高い。

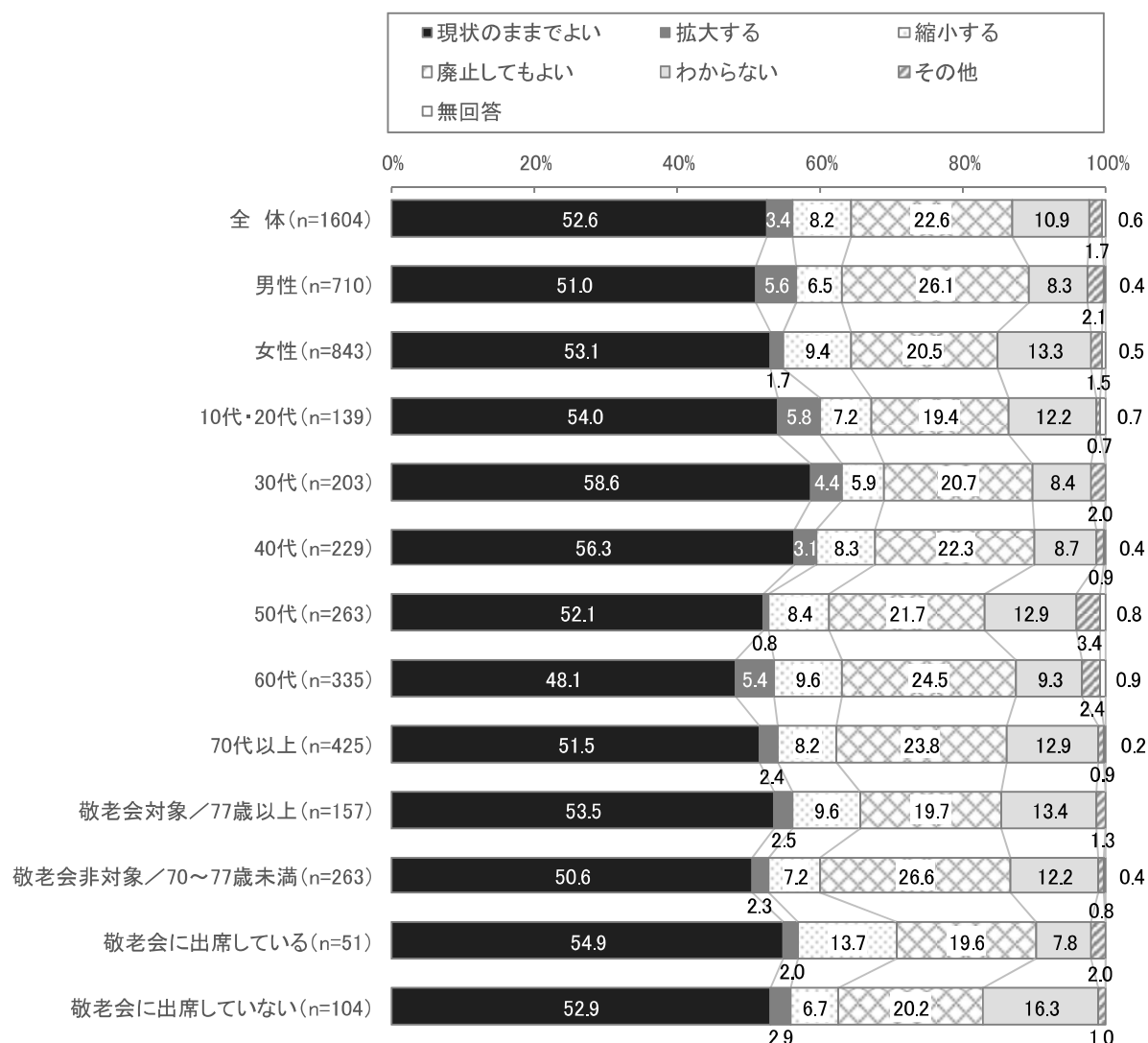
年代別にみても、「現状のままでよい」が全ての年代で最も高い。特に10代・20代では60.4%と他の世代に比べて高くなっている。

敬老会対象者別にみても、対象者・非対象者ともに、「現状のままでよい」が最も高い。特に対象者ではおよそ6割となっている。

敬老会の出席者別にみても、出席者・非出席者ともに「現状のままでよい」が最も高く、特に出席者では7割となっている。

(7) 最高齢者長寿祝に関する考え

問 15 最高齢者長寿祝（1万5,000円以内の記念品・花束）について、どのように思いますか。
（○は1つ）



最高齢者長寿祝に関する考えについて、全体で見ると、「現状のままでよい」が52.6%で最も高く、次いで「廃止してもよい」22.6%、「わからない」10.9%の順となっている。

男女別にみても、「現状のままでよい」が男女ともに最も高い。

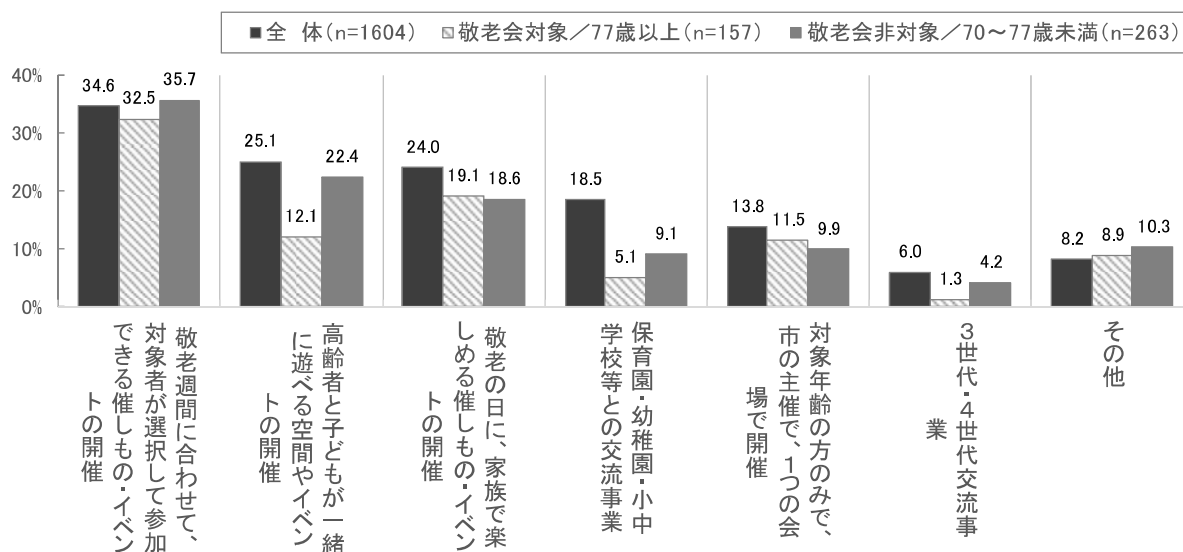
年代別にみても、「現状のままでよい」が全ての年代で最も高く、60代を除いて全ての世代で5割以上となっている。

敬老会対象者別にみても、対象者・非対象者ともに、「現状のままでよい」が最も高い。なお、「廃止してもよい」が非対象者で26.6%と3割近い割合となっている。

敬老会の出席者別にみても、出席者・非出席者ともに「現状のままでよい」が最も高い。

(8) 魅力的な敬老会

問 16 魅力的な敬老会とは、どのようなものだと思いますか。(〇はいくつでも)



(%)

	(n=)	敬老週間に合わせて、対象者が選択して参加できる催しもの・イベントの開催	高齢者と子どもが一緒に遊べる空間やイベントの開催(子どもたちとおしゃべりカフェ、昔の遊びなど)	敬老の日に、家族で楽しめる催しもの・イベントの開催	保育園・幼稚園・小学校等との交流事業	対象年齢の方のみで、市の主催で、1つの会場で開催(成人式のような方式)	3世代・4世代交流事業	その他	無回答
全体	1604	34.6	25.1	24.0	18.5	13.8	6.0	8.2	8.0
男性	710	33.8	21.7	26.8	17.9	15.8	7.6	10.0	5.1
女性	843	36.1	27.6	21.6	19.7	12.7	5.1	6.9	9.5
10代・20代	139	30.9	29.5	35.3	28.8	21.6	7.2	6.5	1.4
30代	203	34.0	29.1	29.6	32.5	15.8	8.9	3.4	1.0
40代	229	30.6	27.1	24.9	27.9	15.3	7.4	5.7	0.9
50代	263	35.0	27.4	20.9	18.3	14.4	7.2	11.0	3.4
60代	335	40.0	25.4	24.8	14.0	12.8	6.0	9.3	9.9
70代以上	425	34.1	18.4	18.8	7.5	10.4	3.1	9.9	18.4
敬老会対象/77歳以上	157	32.5	12.1	19.1	5.1	11.5	1.3	8.9	24.2
敬老会非対象/70~77歳未満	263	35.7	22.4	18.6	9.1	9.9	4.2	10.3	14.1
敬老会に出席している	51	21.6	13.7	17.6	5.9	19.6	-	7.8	27.5
敬老会に出席していない	104	37.5	10.6	20.2	4.8	7.7	1.9	9.6	23.1

魅力的な敬老会について、全体で見ると、「敬老週間に合わせて、対象者が選択して参加できる催しもの・イベントの開催」が34.6%で最も高く、次いで「高齢者と子どもと一緒に遊べる空間やイベントの開催」25.1%、「敬老の日に、家族で楽しめる催しもの・イベントの開催」24.0%の順となっている。

男女別にみても、「敬老週間に合わせて、対象者が選択して参加できる催しもの・イベントの開催」が男女ともに最も高い。

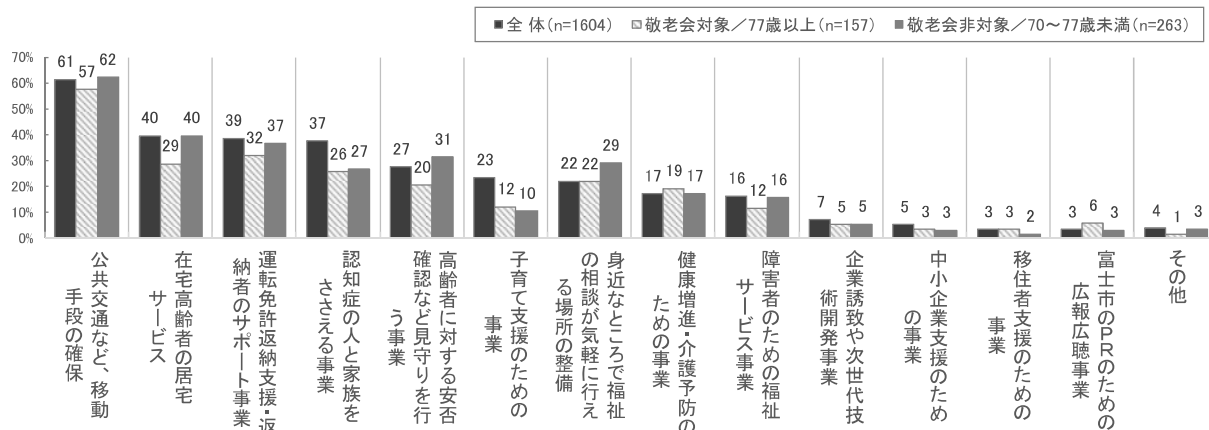
年代別にみても、「敬老週間に合わせて、対象者が選択して参加できる催しもの・イベントの開催」が10代・20代を除いて全ての年代で最も高い。なお、10代・20代では「敬老の日に、家族で楽しめる催しもの・イベントの開催」が最も高くなっている。また、30代を境に年代が高くなるにつれて「保育園・幼稚園・小中学校等との交流事業」の割合が低くなっている。

敬老会対象者別にみても、対象者・非対象者ともに、「敬老週間に合わせて、対象者が選択して参加できる催しもの・イベントの開催」が最も高い。なお、「高齢者と子どもと一緒に遊べる空間やイベントの開催」が非対象者で22.4%と、対象者と比べて2倍近くになっている。

敬老会の出席者別にみても、出席者・非出席者ともに「敬老週間に合わせて、対象者が選択して参加できる催しもの・イベントの開催」が最も高い。なお、「対象年齢の方のみで、市の主催で、1つの会場で開催」が出席者で19.6%と、非出席者と比べて10ポイントほど高くなっている。

(9) 敬老事業を見直した場合に充実させてほしいサービス・事業

問 17 敬老事業の見直しにより余剰財源が生じた場合、それを他の事業に振り分けるとしたら、どのようなサービス・事業を充実させてほしいと思いますか。(〇はいくつでも)



	(n=)	公共交通(バス・電車・高齢者福祉タクシー)など、移動手段の確保	在宅高齢者の居宅サービス	運転免許返納支援・返納者のサポート事業	認知症の人と家族をささえる事業	高齢者に対する安否確認など見守りを行う事業	子育て支援のための事業	身近なところで福祉の相談が気軽にできる場所の整備	健康増進・介護予防のための事業(健康づくり教室・介護予防教室の開催など)	障害者のための福祉サービス事業	企業誘致や次世代技術開発事業	中小企業支援のための事業	移住者支援のための事業	富士市のPRのための広報広聴事業	その他	無回答
全体	1604	61.2	39.5	38.5	37.4	27.4	23.3	22.0	17.0	16.2	7.0	5.1	3.2	3.1	3.6	2.1
男性	710	57.5	37.7	36.9	36.2	27.6	24.2	18.9	16.3	15.6	9.0	6.1	4.6	3.2	3.8	1.5
女性	843	64.7	41.8	40.0	38.9	27.4	23.4	24.1	17.3	16.6	5.5	4.4	2.1	3.0	3.4	1.8
10代・20代	139	56.1	33.8	36.0	38.1	24.5	45.3	17.3	17.3	14.4	9.4	11.5	6.5	4.3	3.6	0.7
30代	203	63.1	39.9	48.8	46.3	29.1	45.8	15.8	14.3	17.2	10.8	7.4	4.9	3.4	5.9	-
40代	229	56.8	46.3	39.3	45.9	26.6	27.5	23.6	16.2	19.7	7.4	7.4	2.6	2.2	2.6	0.4
50代	263	66.2	43.3	39.9	41.1	26.6	16.7	19.0	16.0	15.6	6.5	5.3	1.9	1.1	4.9	1.5
60代	335	63.0	40.3	36.4	38.2	29.9	19.4	23.6	19.1	17.3	6.3	2.1	3.6	3.3	2.7	3.0
70代以上	425	60.0	35.1	34.4	25.9	26.8	10.8	26.1	17.6	14.1	5.2	3.1	2.1	4.0	2.6	3.5
敬老会対象/77歳以上	157	57.3	28.7	31.8	25.5	20.4	12.1	21.7	19.1	11.5	5.1	3.2	3.2	5.7	1.3	4.5
敬老会非対象/70~77歳未満	263	62.0	39.5	36.5	26.6	31.2	10.3	28.9	17.1	15.6	5.3	3.0	1.5	3.0	3.4	2.7
敬老会に出席している	51	58.8	23.5	39.2	25.5	21.6	11.8	17.6	21.6	5.9	3.9	5.9	3.9	7.8	-	3.9
敬老会に出席していない	104	56.7	31.7	27.9	26.0	20.2	10.6	24.0	17.3	13.5	5.8	1.9	2.9	4.8	1.9	4.8

Ⅱ 調査結果

敬老事業を見直した場合に充実させてほしいサービス・事業について、全体で見ると、「公共交通(バス・電車・高齢者福祉タクシー)など、移動手段の確保」が61.2%で最も高く、次いで「在宅高齢者の居宅サービス」39.5%、「運転免許返納支援・返納者のサポート事業」38.5%の順となっている。

男女別にみても、「公共交通など、移動手段の確保」が男女ともに最も高い。特に女性では64.7%と6割以上となっている。

年代別にみても、「公共交通など、移動手段の確保」が全ての年代で最も高い。なお、10代・20代と30代の若い世代では、「子育て支援のための事業」が4割以上と他の世代に比べて高い。

敬老会対象者別にみても、対象者・非対象者ともに、「公共交通など、移動手段の確保」が最も高い。なお、「在宅高齢者の居宅サービス」が非対象者で39.5%と4割近い。

敬老会の出席者別にみても、出席者・非出席者ともに「公共交通など、移動手段の確保」が最も高い。なお、「運転免許返納支援・返納者のサポート事業」が出席者で39.2%と、非出席者と比べて10ポイント以上高くなっている。